

自閉スペクトラム症の傾向がある学生に効果的な就労支援 —ビジネスマナーに限定した面接セミナーを通して—

執筆者

北添紀子・平野晋吾・上田規人・藤田尚文・二宮仁志・松本秀彦・是永かな子・畠中雄平・寺田信一

概要

【目的】

ビジネスマナーのみに限定した就職面接セミナーを実施し、自閉スペクトラム症（ASD）特性のある大学生、大学院生に対する効果を検証した。

【方法】

セミナーは、ASD 特性のある大学生にとっても理解しやすいように配慮し計画した。分析対象者は、セミナー前後の面接評定、セミナー前の Autism-Spectrum Quotient(AQ)のデータがそろっている 94 名（男性 35 名、女性 59 名）だった。面接評定は、セミナー講師が面接を行い、面接時の「表情」、「相手の話の聞き方」、「声の聞き取りやすさ」など、10 項目で面接時の印象を評価した。セミナー講師以外に 2 名の評定者もそれぞれ評定を行い、計 3 名、10 項目の平均値を面接評定の得点とした。学生も同じ項目について、自己評価を行った。分析対象者を、AQ 高低群（カットオフ値 26 点）と、性別で 4 群に分け、面接評定（他者評価）、面接自己評価について、セミナー前後でのスコア変化の比較を試みた。

【結果】

セミナー前後 ($p < .001$) と 4 群間 ($p < .001$) に有意な主効果が認められ、セミナー後の得点が高くなった。セミナー前後と 4 群間に交互作用は認められなかった。AQ 高得点群男性と他の 3 群との間に有意な差が認められ、AQ 高得点群男性の得点が低かったことが示された。セミナー前後の面接の自己評価の変化は、セミナー後の得点が高く、4 群間では有意差が認められなかった。

【考察】

AQ 高得点の男性は、他の 3 群に比べ、セミナー前の面接評定の得点が低だけでなく、セミナー後も他の群に比べて声の大きさ、姿勢、表情など就職面接時に必要なスキルが乏しいことが確認された。しかし、AQ 高得点の男性に対しても、他の群と同様に、ビジネスマナーとしての面接スキルを向上させる効果があることが明らかになった。今回の就職面接指導の方法は、ASD 傾向を一部もつ学生に対しても、効果的だったと考えられる。一方で、面接の自己評価では、AQ 高低別性別群間に有意差が認められず、AQ 高得点の男性では、面接に関する自己評価と他者評価のずれがあることが明らかとなった。ASD 特性のある学生に対しても、ASD 特性のない学生に対しても、就職面接スキルの向上に効果的な方法の一つを提案した。